

特別支援学校での実習は終わっていたが、社会福祉施設に来る前はとても緊張した。自分から積極的に話しかけよう、みなさんとの関わりを大事にしていこう、と思っていたが、どうやって?という疑問を持った。しかし何か特別なことをする必要はなかった。ただ普通に関わればよかった。少し話すスピードがゆっくりであったり、自分の感情を身体で表現したりすることが多かったり、というだけであった。これは特別支援学校での体験で学んでいたはずだったが、きちんと学べていなかった。それが悔しかった。もし自分の中で当たり前になっていれば、別のことを考えたり積極的に行動することもできたのではないかと思う。

実習初日の記録ページで作業所は仕事をする場であって、特別支援学校とは異なるというコメントをいただいた。初日は本当によく似ていると感じたが、日が経つにつれて、2つ（特別支援学校と障害者作業所）が異なっていることが分かった。生活を勉強している学校に対して作業所では「納品が…」など仕事の話ばかりだったからだ。よく考えもしないで言葉にしてしまうと、相手を傷つけてしまう可能性があることを感じた。初心に帰らされた気分だった。健常者に比べ、障がいを持った人は繊細で感情豊かである。そのような人に5日間という短い期間ではあったが、関わらせていただける機会を得られて本当によかった。物事を多方面から考え、相手のことをよく考えながら関わることの重要性や、障がいを持っている人の社会的立場、そしてバリアフリーの大切さを今回の実習で感じた。それはこの作業所でいろいろなことを体験させていただけたから感じられたことだと思う。

これからは、今まで以上に自分の考えをみなさんに負けないくらい、発表したり、町内で困っている人がいれば、手助けをしたいと思う。車椅子を押したり、食事介助や歯磨き支援など、なかなかする機会のないことに挑戦させていただけて本当によかった。

以上